

今回は、「入社 1 年目の教科書」という本からです

単純作業こそ「仕組化」「ゲーム化」

単純作業も「何のためにやるのか」という目的を意識して取り組めば、面白くなると思います。方法はそれだけではありません。「仕組化」もその一つです。「このデータをエクセルに入力しておいてくれ」上司が指したのは、資料の束です。ここから必要なデータだけを拾って、表計算ソフトのエクセルに入力する。資料の内容を一つ一つ確認しながら、数字をピックアップして、正しく入力しなければなりません。単に入力することだけを考えて取り組むと、辛くて面倒な仕事に思えてなりません。このような場合、データ入力をし終わったあとの使い方を想像してみてもいいでしょうか。まずは資料とにらめっこ。何のデータを入力するか、じっくり観察します。円グラフなのか棒グラフなのか、折れ線グラフなのか他業界やライバル企業の数字との比較もありそうかそう考えながら入力していくと、単純作業であるデータ入力も違った顔を見せるものです。また、数字そのものを追いつながらデータ入力をしていけば、時系列でどのような数字の変化があるか、規則的なか不規則なのか、個々のセルに入力する数字も、並べて眺めてみると何かしらの傾向や大局がつかめることもあります。もしこの仕事が膨大で単純で退屈な作業だと感じたら、次にデータ入力を担当する人が**効率的に作業を行うためのパターン**を考え出してください。入力する前に、数字にマーカーを引いておく。単位や品目などをあらかじめ打ち込んでおいたテンプレートを用意する。こんな具合に、いくらでもアイデアはあると思います。つまらない仕事、単調な仕事には改善の余地があると考えながら取り組めば、単純作業も違った様相を見せるはずで。ほかに方法はないのか。あるいは本当にこの仕事は必要なのか。仕組み化を検討したあとは、この作業そのものをなくすことを考えてもいいかもしれません。新人社員には、単調な仕事が繰り返し依頼されることがあります。その際には、作業を「ゲーム化」することも考えてもいいでしょう。最初は 1 時間かかっていたデータ入力を、効率性を追求した結果 5 分短縮できたとします。さらにもう 5 分間のスピードアップを実現するためには、どんな改善を加えればいいのかを考えるのです。僕は、こうした単調な作業が嫌いではありません。むしろ楽しんで取り組んでいました。たとえば、参議院選挙の都道府県別投票率を入力するとします。どうせやるなら、どれだけきれいに入力できるかを考えます。単純の投票率を入力するだけでは芸がないので、年代別の比較ができるように打ち込んでいきます。それだけでもまだ面白くないので、投票率が高い順に並べ、高齢化と投票率の相関関係を比較できるような資料を作るのもいいでしょう。どんな仕事にも、必ずその人なりの付加価値をつけられるはずで。頼まれてもいないのに付加価値をつけて情報を渡そうとする姿勢は、必ず他者との差別化につながります。仕事を頼んだ上司の、あなたを見る目も変わってたくらみましょう。「どうしたらもっと見やすくなるか」「どうしたらもっと効率的にできるか」常に自主的に工夫を凝らし、提案し、実行し、ほかの人とは違う成果を提出し続ければ、**次に依頼される仕事は、単調なものではなくなるはずで**

単純作業も何の目的を意識して取り組めば面白くなりますか？

()

新人社員には何が多く依頼されますか？

()

次に依頼される仕事は、どうすれば単調なものでなくなりますか？

()